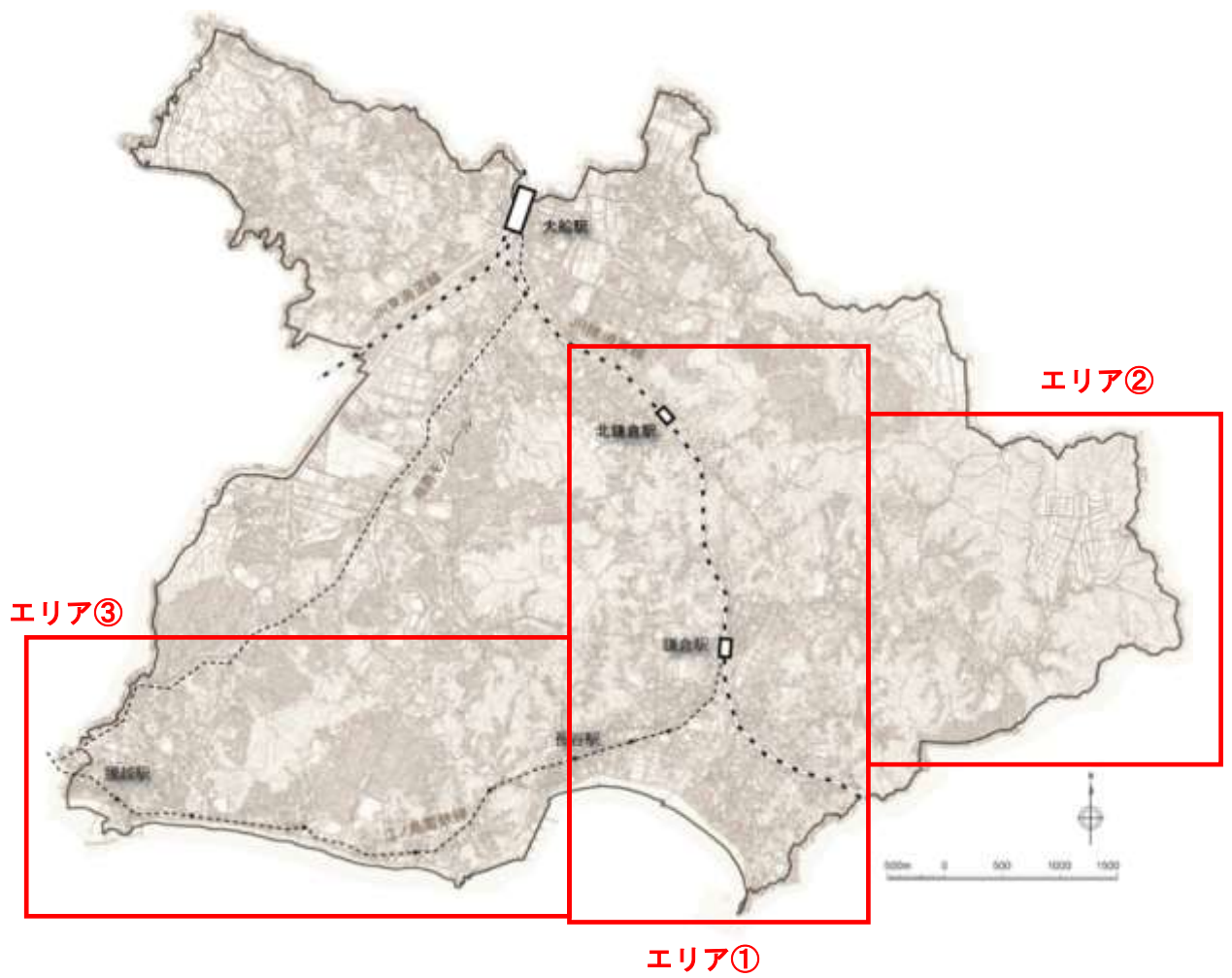


① 申請者	鎌倉市	② タイプ	<div>地域型</div> / シリアル型 <div>A</div> <div>B</div> <div>C</div> <div>D</div> <div>E</div>
③ タイトル			
「いざ、鎌倉」 ～ 歴史と文化が描くモザイク画のまちへ ～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>鎌倉は、源頼朝によって幕府が開かれた後、急速に都市整備が進められ、まちの中心には鶴岡八幡宮、山には切通<sup>きりどおし</sup>、山裾には禅宗寺院をはじめとする大寺院が造られた。</p> <p>この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、近世には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、近代には多くの別荘が建てられたが、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は守り伝えられてきた。</p> <p>このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業<sup>なりわい</sup>や行事など様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。</p>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	鎌倉市 歴史まちづくり推進担当 高橋悠子、門田楽子		
電 話	(0467) 61-3849	FAX	(0467) 23-1085
E-mail	rekimachi@city.kamakura.kanagawa.jp		
住 所	神奈川県鎌倉市御成町 18-10		

## 市町村の位置図



# 構成文化財の位置図



エリア①拡大図



出典：国土地理院ホームページ (<http://maps.gsi.go.jp/>)  
地理院地図を加工して作成（以下同じ）

エリア②拡大図



エリア③拡大図





## ストーリー

## 【鎌倉幕府の成立】

鎌倉は、12世紀末に源頼朝が幕府を開き、貴族社会から武家社会への転換という、革命的な変化が起きた舞台であり、本格的な武家政権が誕生した地である。

鎌倉は、政権所在地となって以降、幕府によって急速に都市整備が進められた。南が海、三方を山に囲まれた内側には、まちの中心及び基軸として、政権の守護神鶴岡八幡宮とその参道の若宮大路が建設され、山には内外を結ぶために尾根を垂直に掘り下げた「切通」と呼ばれる道が開削された。また、切通近辺の山裾には、大寺院が建立されるなど、鎌倉のまちの基本構造はこの時代にほぼ確立した。

さらに、幕府は宗教政策にも積極的に取り組んだ。特に禅宗は、坐禅と問答によって悟りを開こうとする修行の形式が武士の趣向に合ったことや、茶や美術工芸など当時の最先端を行く中国文化を伴っていたことから手厚く保護され、多くの禅宗寺院が建立された。

中世都市鎌倉は、幕府滅亡後も室町幕府の東国支配の拠点（鎌倉公方）として大いに繁栄したが、公方の移転に伴って徐々に衰退し、戦国時代には静かな農漁村となった。

## 【鎌倉観光の先駆け】

寒村となった鎌倉にあっても、社寺は時の権力者が鎌倉を武家政権発祥の聖地として保護し続けたことから、唯一命脈を保った。特に、徳川家康をはじめとする江戸幕府の將軍家は源氏を称したため、源氏の棟梁である頼朝が造った鎌倉を重視し、鶴岡八幡宮や建長寺などの社寺の復興に尽力した。

さらに、江戸時代中期以降、歌舞伎や浄瑠璃の演目あるいは地誌などで取り上げられ、七里ヶ浜から江ノ島や富士山を望む浮世絵が頻繁に描かれるようになると、鎌倉は庶民に広く知られるところとなった。そして、頼朝ゆかりの古都、多くの社寺がある名所として、鎌倉は信仰と遊山の対象となり、江戸近郊のいわば観光地となっていった。中でも若宮大路は、その沿道に遊山客を対象とした商店、茶屋、旅籠などが軒を連ね、大いに賑わった。

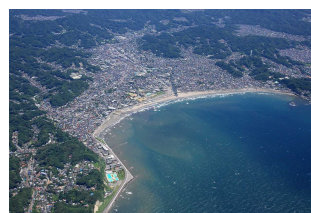
## 【別荘地鎌倉】

江戸時代からの認知度の高さに加え、温暖な気候に恵まれ、遠浅の美しい海岸を持つ鎌倉は、まさに東京近郊のリゾート地としての条件を備えていた。

明治初年、日本医学の発展に尽くし、保養の思想を導入したドイツ人医師ベルツは、七里ヶ浜からの眺めを「日本で一番美しい地点である」と日記に残しているが、そこは東に三浦半島、南に伊豆大島、西に江ノ島、そして遥か彼方には雄大な富士山を望む絶景スポットであり、彼がそう記したのも頷ける。

その後、鎌倉は海浜保養の適地とされ、明治20年(1887年)には由比ガ浜にサナトリウム「海濱院」が建設され、海濱院は翌年「海濱ホテル」となった。この頃から多くの人々を受け入れる体制が整い始め、海水浴は瞬く間にレジャーとして定着し、次第に鎌倉の価値が見直されるようになっていった。

さらに、明治時代中期に東海道線、横須賀線が相次いで開通したこと、御用邸が造営されたことによって、多くの政界人、財界人、官僚、軍人、華族などが訪れるようになり、鎌倉には旧加賀藩



南が海、三方を山に囲まれた鎌倉のまち



鶴岡八幡宮



建長寺

賑わう若宮大路の様子  
（「諸国道中金の草鞋」より）

前田家別邸（現鎌倉文学館）をはじめとする別荘が建てられた。これを契機に、近代都市としてのまちづくりが進められることになった。

こうした中で、別荘に由来する様々な営みが発展した。日本的な草花の絵柄を中心とした力強い彫刻に、柔らかさと温かみを備えた漆を塗ることを特徴とする「鎌倉彫」は、鎌倉を代表する工芸品であり、土産物や贈答品として重宝されている。これは、仏像や仏具などを製作していた仏師たちが、明治時代に廃仏毀釈によって需要が激減したとき、別荘を構えた上流階級のニーズに合わせ、家具や調度品の製作を主体とするようになり、それが鎌倉彫として広まったものである。

また、別荘に暮らす顧客への品質の高い商品の提供や、別荘を訪問し注文を受け、それぞれの要望に細かく応えるニーズに応える「御用聞き」などのサービスが展開され、鎌倉の商業形態の一つとして確立した。

### 【鎌倉文士<sup>かまくらぶんし</sup>】

別荘地として発展していくにつれ、東京からほど近く最も身近な古都であった鎌倉には、多くの文人墨客が住まうようになり、活発な文芸活動が展開された。当初は白樺派を中心とした作家たちが集住していたが、その後、日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成や、時代小説「鞍馬<sup>くらま</sup>天狗<sup>てんぐ</sup>」で知られる大佛次郎<sup>おさらぎじろう</sup>など、志を同じくする者たちが追随し、彼らはやがて「鎌倉文士」と呼ばれるようになった。彼らは、中世以来脈々と続く古都鎌倉の趣に憧憬を抱き、社寺がたたずみ静寂さが漂う<sup>やと</sup>谷戸に洋風・和風の住宅を建て文筆活動に励んだ。その作品には鎌倉の社寺やまちなみが数多く登場する。

鎌倉文士は地域にも貢献したが、最も象徴的な出来事は「御谷騒動<sup>おやつ</sup>」である。鎌倉にも昭和 35 年頃から宅地造成の波が押し寄せ、聖域ともいえる鶴岡八幡宮の裏山「御谷」にまで開発の手が伸びた。この時、彼らは市民や僧侶らと共に開発現場でブルドーザーの前に立ちはだかり、反対運動を行った。結果的に御谷は守られ、これがきっかけとなり古都保存法が制定されたことによって、歴史的遺産と緑とが調和した鎌倉特有の景観が守られることとなった。

また、鎌倉文士はかつて夏の風物詩であった「鎌倉カーニバル」や、今も続く鶴岡八幡宮の「ぼんぼり祭」などを発案し、まちを盛り上げた。夕暮れ時、鎌倉在住の作家、画家、書家など各界で活躍する人々が描いたぼんぼりが境内に一直線に灯された様は、中世と近代が融合した象徴的な風情である。

そして、近代の鎌倉では、鎌倉文士のみならず、映画監督の小津安二郎をはじめ、俳優や画家など多くの芸術家も暮らしたことから、古都としての歴史に加え、近代芸術の新たな文化を創出するまちとなった。

### 【歴史と文化が描くモザイク画】

頼朝が鎌倉幕府を開いてより 800 有余年。この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、江戸時代には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、明治時代から大正時代には別荘が建てられ、近代都市としてのまちづくりが進められた。そうした中にあっても、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は、多くの人々によって守り伝えられてきた。

このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気<sup>なりわい</sup>の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事など様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。



鎌倉文学館（旧前田家別邸）



鎌倉彫



鎌倉カーニバルの様子



ぼんぼり祭

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	つるがおかはちまんぐう 鶴岡八幡宮	国史跡、 国重文（建造物）、県史跡、 市指定（建造物、天然記念物）	源頼朝が鎌倉のまちの中心に据えた、 武家政権の守護神。 武家政権と武家から篤く崇敬された ことに加え、幕府の宗教政策上の中心 的な施設として、公式行事が執り行わ れるなど、政治・儀礼の舞台としても 重要な場所であった。	
2	わかみやお おじ 若宮大路	国史跡、国重 文（建造物）	鶴岡八幡宮の参道。頼朝が妻・政子の 安産を願って造ったもので、中世から 変わらず「鎌倉」の中心軸となる道で ある。 中央に一段高い道、段葛 <sup>だんかつら</sup> がある。	
3	えがらてんじんしゃ 荏柄天神社	国史跡、重文 （建造物）	頼朝により、幕府の鬼門（北東）を鎮護 する神として祀られた。また、鎌倉文 士が中心となって立ち上げた鎌倉ペ ンクラブの一員であった漫画家横山 隆一による絵筆塚がある。	
4	かまくらぐう 鎌倉宮	未指定	明治天皇の勅命によって創建され、南 北朝期に非業の死を遂げた護良親王 <sup>もりなが</sup> を祭神とする神社。創建後、皇族や華 族が鎌倉を訪れ、御用邸、別荘が建て られる契機の一つとなった。 作家立原正秋がここで執り行われる 能を題材として『薪能』を著わすなど、 文士の創作の舞台ともなった。	
5	ごりようじんしゃ 御霊神社	県指定（無形 民俗）、市指 定（有形民 俗）、市（天 然記念物）	鎌倉の特徴的行事の一つで、中世の 「伎楽面風流」に起源があるとされる 面掛行列が行われる。 小説家で詩人の国木田独歩が境内や その近くに住むなど、文士の創作活動 が行われた。	



6	こゆるぎじんじゃ 小動神社	未指定	海に突き出した小動山に建ち、相模湾を一望する。頼朝に仕えた佐々木盛綱による創建。 小説家太宰治が小動岬で心中を図り、その体験を『道化の華』に著わすなど、文士の創作の舞台となった。	
7	ぜにあらいべんざいてん う が ふくじんじゃ 銭洗弁財天宇賀福神社	未指定	文治元年（1185）の巳の月の巳の日に宇賀福神が頼朝の夢に現れ、その教えに従いこの地に宇賀福神を祀ったところ、平安な世が訪れたとの言い伝えがある。	
8	かまくらだいぶつ 鎌倉大仏 (銅造阿弥陀如来坐像)	国史跡、 国宝（彫刻）	武家政権と民衆の安寧を願って造立された鑄造仏。 中世に鑄造されたときのまま露座に佇むその姿は、多くの作品の題材となった。 長谷の大仏裏に住んでいた大佛次郎は筆名を、大仏を太郎とし、自らは次郎と謙遜し名付けたとのエピソードがある。歌人と謝野晶子が「美男におはす」と詠んだことでも知られる。	
9	けんちやうじ 建長寺	国史跡、重文（建造物）、 国名勝、県指定（建造物）、 市指定（天然記念物）	鎌倉五山の第一位。鎌倉時代、第五代執権北条時頼によって建立された日本初の禅宗専門寺院。 付近には亀ヶ谷坂の切通があり、鎌倉の交通上・防衛上の重要な箇所だった。	
10	えんがくじ 円覚寺	国史跡、 国宝（建造物）、 県指定（建造物）、 市指定（建造物、天然記念物）、 国名勝	鎌倉五山の第二位。建長寺に続き建立された禅宗専門寺院。 夏目漱石が『門』の中で描いた他、島崎藤村、有島武郎らも執筆のために訪れるなど、多くの文士の創作の舞台や創作活動の場となった。	
11	じゅふくじ 寿福寺	国史跡、市指定（建造物、 天然記念物）	鎌倉五山の第三位。頼朝の父、源義朝の館跡と伝えられ、源氏の由緒を示す。茶を広めた栄西がひらいた鎌倉最初の禅宗寺院。 詩人中原中也が亡くなる直前に境内に住まうなど、文士の創作活動の場となった。	
12	じやうちじ 浄智寺	国史跡	鎌倉五山の第四位。第五代執権北条時頼の三男である北条宗政の菩提を弔うために創建された禅宗寺院。 日本画家小倉遊亀が近くに暮らし、創作活動を行った。	

13	じょうみょうじ 浄妙寺	国史跡	鎌倉五山の第五位。頼朝の忠臣で剛勇の武士であった足利義兼によって創建された。 室町時代に鎌倉公方として東国の政権を担った足利氏の菩提寺。	
14	すぎもとでら 杉本寺	県指定（建造物）	天平の頃に建立されたと伝わる鎌倉最古の寺院。頼朝が修造を行った。	
15	ほうかいじ 宝戒寺	未指定	北条氏滅亡後、その霊を弔うため、北条氏得宗家の屋敷跡に建立された。	
16	かくおんじ 覚園寺	国史跡、重文（建造物）、 県指定（建造物）、県史跡	第二代執権北条義時が 1218 年に大倉薬師堂を建立したのが始まり。1296 年に真言・天台・禅・浄土の四宗兼学道場として整備された。境内は中世の面影をよく残している。	
17	じょうこうみょうじ 浄光明寺	国史跡、重文（建造物）、 市指定（建造物）、市史跡	第六代執権北条長時が創建。室町時代には鎌倉公方の菩提寺となった。亀ヶ谷坂の切通近くに位置し、鎌倉の交通上及び防御上の最も重要な地域に営まれた寺院である。	
18	みょうおういん 明王院	未指定	鎌倉幕府の第四代将軍藤原頼経により国家の安泰を祈願して建立され、以後、幕府・将軍家の祈願所として重んじられた。鎌倉将軍家建立の寺としては現存する唯一のものである。	
19	じょうじゆいん 成就院	市文化財（建造物）	第三代執権北条泰時により、鎌倉の守りとして極楽寺坂脇に建立された。1333 年、幕府が滅亡した鎌倉攻めの際に焼失し、一時別の場所に移されたが、江戸時代に元の場所に再建された。	
20	えいしょうじ 英勝寺	重文（建造物）	徳川家康の側室となったお梶の方が祖先太田道灌の屋敷跡に建立させた。徳川光圀が鎌倉や武州金沢の史跡・名勝を巡覧した際、宿所とした。	
21	こうみょうじ 光明寺	重文（建造物）、県指定（建造物）、 市指定（建造物）、市史跡	浄土宗の大本山。第四代執権北条経時の創建。 戦後復興の過程で、文人・学者等が集まって開校した市民大学「鎌倉アカデミア」の仮校舎となった。	

22	めいげついん 明月院	国史跡	山ノ内俊道追善の為、嫡子経俊が創建の明月庵が元。約百年後第五代執権北条時頼が出家のため建立した最明寺を前身に、息子時宗が禅興寺を再興。更に百年後、上杉憲方が支院の首位に置く。時代の変遷とともにその由緒を伝えている。	
23	ほうこくじ 報国寺	未指定	竹寺として知られる禅宗寺院。足利氏の祖先供養のため上杉氏が開いた。	
24	とうけいじ 東慶寺	未指定	第八代執権北条時宗夫人の覚山志道尼が開創。駆け込めば離縁できる女人救済の寺として、明治に至るまで縁切りの寺法を引き継いできた。	
25	ずいせんじ 瑞泉寺	国史跡、国名勝	鎌倉公方の菩提寺とされた禅宗寺院。岩盤を穿った庭園は、禅の思想と庭が融合したものである。鎌倉における禅宗文学の中心の一つ。作家永井龍男が『秋』の舞台とするなど、文士の創作の舞台となった。	
26	ほんがくじ 本覚寺	未指定	境内は「吾妻鏡」に見える夷堂の地といわれている。身延山から日蓮の遺骨を分骨して納められた。	
27	みょうほんじ 妙本寺	未指定	日蓮開山の、日蓮宗最古の寺院。北条一族によって滅ぼされた比企一族を弔うために建立された。	
28	あんこくろんじ 安国論寺	未指定	日蓮宗の寺院。日蓮が草庵を結び「立正安国論」を著わした場所とされる。	
29	ごくらくじ 極楽寺	国史跡、重文(建造物)	第二代執権北条義時の三男、重時が建立した真言律宗の寺院。極楽寺坂の切通という鎌倉から京都方面へ向かう交通上また防衛上の重要な箇所配置された。	
30	はせでら 長谷寺	市文化財(建造物)	古くから坂東観音霊場の第四番札所として民衆の信仰を集めてきた。評論家高山樗牛が境内の慈眼院やその隣接地に居住するなど、文士の創作活動の場となった。	

31	おおまちしゃかどうぐち 大町釈迦堂口遺跡	国史跡	釈迦堂切通は、浄明寺と大町を往来する道。 作家永井路子が『炎環』を著わすなど、文士の創作の舞台となった。	
32	ほっけどうあと 法華堂跡 (源頼朝墓・北条義時墓)	国史跡	頼朝と第二代執権北条義時の死後の冥福を祈る建物（法華堂）が建てられた跡であり、現在は石塔が建っている。	
33	ようふくじあと 永福寺跡	国史跡	頼朝が、奥州藤原氏、弟源義経をはじめ合戦による戦死者の冥福を祈って建設した寺院跡。将軍家の別荘的性格も持っていた。当時の伽藍配置やその変遷、苑池や鑓水などの遺構が良好な状態で保存されている。	
34	あさいなきりどおし 朝夷奈切通	国史跡	中世都市鎌倉の内外を結ぶための交通路として造られた。	
35	けはいざか 仮粧坂	国史跡		
36	だいぶつきりどおし 大仏切通	国史跡		
37	なごえきりどおし 名越切通	国史跡		
38	鎌倉文学館 (旧前田家鎌倉別邸)	国登録有形文化財	鎌倉三大洋館の一つ。加賀百万石の藩主で知られる、旧前田侯爵家の鎌倉別邸。昭和 60 年、鎌倉ゆかりの文学者の著書・原稿・愛用品などの文学資料を収集保存し、展示することを目的として鎌倉文学館が開館した。	
39	きゅうかちょうのみやてい 旧華頂宮邸	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉三大洋館の一つ。華頂博信侯爵が自身の邸として建てた。洋風民家が幾何学式庭園、樹木と一体となり、往時の華やかな暮らしを彷彿とさせる。	



40	きゅうかわきたていべつてい 旧川喜多邸別邸 (旧和辻邸)	景観重要建造物	生涯を通じて外国映画の輸入と配給、海外への日本映画紹介などに情熱を注いだ川喜多夫妻ゆかりの建物。東京にあった哲学者和辻哲郎の住宅を移築したもので、もとは大山にあった古民家を解体移築したと伝わる。夫妻はここを海外から訪れる映画監督やスターたちを迎える場とした。	
41	せんこさんそう 扇湖山荘	未指定	古都鎌倉の風情に惹かれた「ワカモト製薬」創業者の長尾欣彌が別荘として建てた。杉木立から海が扇形に見えることから名付けられた。	
42	はせ 長谷子ども会館 (旧諸戸邸)	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	株式仲買人として財を成した福島浪蔵の別邸として建てられ、後に諸戸清六別邸となった。明治期の住宅建築の貴重な遺構であり、造形意匠の密度においては、県内でも最高のものである。	
43	よしやのぶこ 吉屋信子記念館	未指定	小説家吉屋信子が暮らした邸宅が、ありし日のままに保存されている。建物は、吉田五十八（近代数寄屋建築の第一人者）により設計されたもの。	
44	石川邸 (旧里見弴邸)	市景観重要建築物等	鎌倉文士の中心的存在であった作家里見弴が自ら設計に関り、住んだ家である。	
45	こがてい 古我邸	未指定	鎌倉三大洋館の一つ。三菱合資会社（後の三菱財閥）の専務理事兼管事をしていた荘清次郎の別荘として建てられた。	
46	らいてい 櫓亭	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉山の分譲を行った菅原通斉の父であり、鉄道事業家・土木技術者として知られる菅原恒覧の別荘として建てられた。 本館は、江戸時代の建造で横浜市戸塚の豪農の旧宅を移転改築し、和洋折衷の住宅としたもの。	
47	すんしょうどう 寸松堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。	
48	はくじつどう 白日堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。	
49	みかわや 三河屋本店	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	明治 33 年創業の酒店で、伝統的な出桁造りの店構えが若宮大路の沿道でひととき目を引く。観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。	

50	湯浅物産館 ゆあさ	市景観重要建築物等	明治 30 年に貝細工の製造加工・卸売りの店舗として創業した。若宮大路の中ほどに位置し、観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。	
51	流鏑馬 やぶさめ	未指定	武者姿の射手が疾走する馬上から 3 つの的を射抜く鎌倉時代からの伝統神事。頼朝が鶴岡八幡宮の放生会で奉納した流鏑馬が始まりとされる。	
52	ぼんぼり（雪洞）祭	未指定	毎年 8 月に鶴岡八幡宮境内で行われる、鎌倉の夏の風物詩ともいえる祭。鎌倉ペンクラブのメンバーが中心となってぼんぼりを並べたのが始まり。	
53	鎌倉名所記	未指定	江戸時代の鎌倉の名所をまとめた案内記。名所めぐりの際に携帯するためのいわばガイドブックである。	
54	鎌倉彫 かまくらぼり	経産省大臣指定伝統的工芸品	鎌倉を代表する伝統的工芸品。13 世紀半ばに禅宗の移入に伴い宋から伝えられた美術工芸品を祖とする。近代以降、鎌倉が別荘地となる中で発展、浸透した。	
55	旧 神奈川県立近代美術館鎌倉館本館 きゅうかながわけんりつきんだいびじゆつかんかまくらかんほんかん	県指定（建造物）	現代建築の巨匠ル・コルビュジエに師事した坂倉準三設計の建築で、日本初の公立近代美術館。日本の近代美術を牽引すると同時に、近代芸術の新たな文化を創出した拠点の一つ。	
56	神霊教鎌倉錬成場（旧山本条太郎邸） しんれいきようかまくられんせいじょうきゅうやまもとじょうたろうてい	国登録有形文化財（建造物）	南満州鉄道株式会社総裁を務めた山本条太郎の別荘として建てられた。敷地や庭も含め、創建当初の建物がほぼ完全に現存しており、当時の生活像を伺うことができる貴重な建物。	

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

## 構成文化財の写真一覧

1 鶴岡八幡宮



2 若宮大路



3 荏柄天神社



4 鎌倉宮 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



5 御霊神社 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



6 小動神社





7 銭洗弁財天宇賀福神社



8 鎌倉大仏（銅造阿弥陀如来坐像）



9 建長寺



10 円覚寺



11 寿福寺



12 浄智寺



13 浄妙寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



14 杉本寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)





15 宝戒寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



16 覚園寺



17 浄光明寺



18 明王院



19 成就院



20 英勝寺



21 光明寺



22 明月院





23 報国寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



24 東慶寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



25 瑞泉寺



26 本覚寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



27 妙本寺



28 安国論寺



29 極楽寺



30 長谷寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)





31 大町釈迦堂口遺跡

(写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



32 法華堂跡（源頼朝墓・北条義時墓）



33 永福寺跡



34 朝夷奈切通



35 仮粧坂 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



36 大仏切通



37 名越切通 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



38 鎌倉文学館（旧前田家鎌倉別邸）





39 旧華頂宮邸



40 旧川喜多邸別邸 (旧和辻邸)



41 扇湖山荘



42 長谷子ども会館 (旧諸戸邸)



43 吉屋信子記念館



44 石川邸 (旧里見弴邸)



45 古我邸



46 榎亭





47 寸松堂



48 白日堂



49 三河屋本店



50 湯浅物産館



51 流鏝馬 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)

鎌倉まつり



鶴岡八幡宮例大祭



52 ぼんぼり（雪洞）祭

(写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



53 鎌倉名所記



54 鎌倉彫



55 旧神奈川県立近代美術館鎌倉館本館



56 神霊教鎌倉錬成場（旧山本条太郎邸）

